

「 釧路湿原自然再生協議会 」

第 4 回 水 循 環 小 委 員 会

資 料

平成 17 年 6 月 2 日

釧路湿原自然再生協議会運営事務局

釧路湿原自然再生協議会

- 第4回「水循環小委員会」 -

日時：平成17年6月2日（火） 13：30～16：30

場所：釧路市生涯学習センター802号、803号

議事次第

1. 開 会

2. 議 事

1) これまでの調査・検討経緯の概要と今後の検討方針

2) 平成16年度の調査・検討成果および平成17年度の調査・検討計画

3) 勉強会

テーマ：泥炭地の地下水 - 釧路泥炭地にみる

発表者：農村空間研究所 所長、北海道大学名誉教授 梅田 安治

3. その他

4. 閉 会

釧路湿原自然再生協議会
水循環小委員会 委員名簿

計:47名

個人(23名)

(敬称略、五十音順)

No	氏名	所属
1	井上 京	北海道大学大学院 農学研究科 助教授
2	梅田 安治	農村空間研究所 所長、北海道大学名誉教授
3	大山 仁美	環境カウンセラー(事業者部門)
4	岡田 操	
5	桂川 雅信	北海道教育大学札幌校 非常勤講師 環境カウンセラー(市民部門)
6	亀山 哲	国立環境研究所 流域圏環境管理研究プロジェクト 主任研究員
7	木村 勲	
8	桜井 一隆	
9	関尾 憲司	環境カウンセラー
10	高村 典子	独立法人 国立環境研究所 生物多様性研究プロジェクト
11	藤間 聡	室蘭工業大学 工学部 教授
12	仲川 泰則	北海道大学 北方生物圏フィールド科学センター 森林圏ステーション 北管理部
13	中津川 誠	国土交通省北海道開発局石狩川開発建設部 豊平川ダム統合管理事務所長
14	中村 太士	北海道大学大学院 農学研究科 教授
15	西内 吾朗	
16	三上 英敏	北海道環境科学研究センター 環境科学部
17	水垣 滋	筑波大学大学院 生命環境科学研究科 生命共存科学専攻 環境創生モデリング分野
18	宮尾 素子	
19	百瀬 邦和	タンチョウ保護調査連合
20	山内 勲	環境カウンセラー(事業者部門)
21	山田 浩之	北海道大学大学院農学研究科 環境資源学専攻地域環境学講座 農地環境情報学分野
22	吉村 暢彦	
23	若菜 勇	阿寒湖畔エコミュージアムセンター マリモ研究室

団体(11名)

(敬称略、五十音順)

No	団体/機関名	代表者名
1	カムイ・エンジニアリング株式会社	代表取締役 大越 武彦
2	釧路カヌー連絡協議会	会長 岩淵 鉄男
3	釧路川水質保全協議会	会長 藪田 守 (釧路市公営企業管理者)
4	釧路自然保護協会	会長 高山末吉
5	釧路湿原塾	運営委員長 栗林 延次
6	釧路生物談話会	代表 須摩 靖彦
7	国際ソロプチミスト釧路	理事 浪岡 敬子
8	さっぽろ自然調査館	代表 渡辺 修
9	タンチョウ保護調査連合	代表 正富 宏之
10	特定非営利活動法人 トラストサルン釧路	理事長 黒沢 信道
11	北海道標茶高等学校	校長 古屋 接雄

オブザーバー(5団体)

(敬称略)

No	団体/機関名	代表者名
1	標茶町農業協同組合	代表理事組合長 門田 功一
2	鶴居村農業協同組合	代表理事組合長 瀧澤 義一
3	幌呂農業協同組合	代表理事組合長 植田 晃雄
4	阿寒農業協同組合	代表理事組合長 小瀬 泰
5	標茶町商工会	会長 栗田 和行

関係行政機関(8機関)

(敬称略)

No	団体/機関名	代表者名
1	国土交通省 北海道開発局 釧路開発建設部	部長 神保 正義
2	環境省 東北海道地区自然保護事務所	所長 星野 一昭
3	北海道 釧路支庁	支庁長 高原 陽二
4	釧路市	市長 伊東 良孝
5	釧路町	町長 菅原 澄
6	標茶町	町長 今西 猛
7	弟子屈町	町長 徳永 哲雄
8	鶴居村	村長 日野浦 正志

第3回水循環小委員会の発言概要と今後の検討方針

項目	発言概要	検討方針	備考
栄養塩類について	水質の流出負荷の検討は、農地・林地からの面源負荷流出する物質の原単位および量を算出しているが、畜舎排水などの点源負荷の流出については検討しないのか。		
	流出負荷量の検証は、発生源別の原単位、流出負荷量検討、流域レベルの現況負荷の把握にフィードバックするような調査内容となっているが、流域の点源について解明しないと、問題は解決しない。農地は面源として捉えると漠然とした推移の把握になってしまうので、人為的な影響として把握する方が良い。	家畜ふん尿にどの程度問題があるかを把握している自治体や、農業担当者と連携し、特定の点源排出も取りうることを念頭に置き、今後のとりまとめにおいて整理を進める。	
	原単位法でも点源負荷量の算出はできる。流域に流出する負荷量が何によって起こっているかを科学的に解明することが前提である。		

<勉強会での質疑事項> 中津川委員「釧路湿原の水循環について」

項目	質問・意見	応答	備考
水循環系について	霧や露の効果を評価しているのか。	基本的にはアメダスや開発局の雨量計等のデータを使用しているが、測定可能であれば考慮したい。	
	地下水位が低下してきているかどうかは現時点のデータから不明である。地下水位が堤内排水路に流入する等の影響も否定できない。仮に影響があるとすれば、地下水保全の方策を考えるべきでは。	泥炭地の植生を議論する場合、地下水位は表層と深層を不連続と捉える必要がある。	
湿原植生の変化について	ハンノキ林の拡大は、地下水位変動の関係はわかっているのか？	計算では1m以上の地下水位変動があるところでハンノキ林が拡大していることがわかっている。実測データを整理し、今後報告する。	
	右岸堤防の北側はミズゴケ湿原・ミズゴケ泥炭堆積層が多く、南側はヨシ堆積層で、同じ泥炭であっても密度と水位の変動との関係はないのか。	なぜ右岸堤防北側は水位変動が少なく南側で変動が大きいのかというと、降水量の変動に追随しやすいことがあると考えている。計算など結果にあらわれているものは、西側で滞水層が浅くて、滞水層は東側に行くに従って深くなっているという傾向がある。地下水が地表に近いところで変動が大きいという結果になっている。	

第4回 水循環小委員会

資料目次

	頁
1. これまでの調査・検討経緯の概要と今後の検討方針	1
1-1. これまでの調査・検討経緯の概要	1
1-2. 今後の検討方針	5
2. 平成16年度の調査・検討成果および平成17年度の調査・検討計画	6
2-1. 釧路湿原の形成史と水理地質の検討	6
2-1-1. 全体計画	6
2-1-2. 平成16年度調査結果	8
2-1-3. 平成17年度以降の調査・検討計画	15
2-2. 釧路湿原の地下水位検討	17
2-2-1. 全体計画	17
2-2-2. 湿原地下水位観測結果	19
2-2-3. 平成17年度以降の調査・検討計画	20
2-3. 釧路湿原の栄養塩類負荷に関する検討	24
2-3-1. 全体計画	24
2-3-2. 平成16年度検討結果の概要	27
2-3-3. 平成17年度以降の調査・検討計画	35
2-4. 農業分野における環境保全に対する取り組み	36
2-5. 達古武沼自然環境調査について	37
2-5-1. 平成16年度自然環境調査結果の概要	37
2-5-2. 達古武沼の自然環境変化の要因	46
2-5-3. 平成17年度以降の調査計画の検討	46
3. 勉強会	48

[参考資料]

- ・ 地下水位観測結果
- ・ 地下水位解析で設定する水理パラメータ
- ・ 釧路湿原の栄養塩類負荷に関する参考資料